

## 「葦」第38号発刊によせて

教育委員長 澤 清 美

平成18年度の教育委員会目標、1看護実践の向上に向けて個人キャリア発達支援。2クリニカルラダー評価表作成。として取り組んだ。

新採用者2か月研修・コミュニケーション研修では、知識の不十分さや対応の不十分さを認識し会場で、1人でない皆一緒なんだと共有できたことで明日への力になった。

新採用者を支えるプリセプターⅡ研修では、上手に指導できないことから育てる重荷を感じながらもチームの支えのありがたさや、互いにメンタルヘルスケアの大切さを学んでいた。

プリセプターⅢ研修ではプリセプティばかりに目を向けず自分の指導のありかたを振り返り今後の自己課題を見つける機会となった。

メンバー研修ではインシデント報告より自覚と責任の重さを再認識し、常に学ぶ姿勢や学習のモチベーションの上げ方を学んでいた。

リーダー研修では、組織における役割を学びチームとしての問題解決の大切さを認識していた。

個人のキャリア発達支援のどの研修においても、相手が変わるのでなく自分が変わることを大切さを学ぶものでした。後は実践の中で表現することを期待したい。

災害看護研修は山崎達枝先生院来ていただいた。危機感を持ち訓練することの重要性を再認識したので、院内全体研修へと繋げたいものです。

看護必要度の評価指導者養成研修は北里大学より田中彰子先生に来ていただいた。効率のよい病床管理の取り組みとして意識を高め次年度への一歩となった。

段階別看護研究・院内看護研究ともに祖父江郁子先生の指導を受け、統計処理能力が毎年レベルアップしている。院外看護研究も26題出すことができ、日々業務に忙しい中で看護への努力が感じられた。

教育委員会としては、このように少しずつ充実してきた段階別教育計画を17年度はクリニカルラダーとしてまとめ、今年度クリニカルラダー評価表を作成することができた。一步一步ではあるが医大看護部の教育体系が確立していく努力を一人一人がこれからもつづけられるように支援していく必要がある。